

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成22年12月9日(2010.12.9)

【公表番号】特表2009-515697(P2009-515697A)

【公表日】平成21年4月16日(2009.4.16)

【年通号数】公開・登録公報2009-015

【出願番号】特願2008-541209(P2008-541209)

【国際特許分類】

B 01 J 20/08 (2006.01)

B 01 D 53/14 (2006.01)

B 01 D 15/00 (2006.01)

【F I】

B 01 J 20/08 C

B 01 D 53/14 A

B 01 D 15/00 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年10月5日(2010.10.5)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

第3の成分は、水または任意選択で塩の水溶液であり、炭酸塩とアルミナ粉末との反応を促進させる重要な役割を果たす。好ましい塩は、酢酸ナトリウム、シュウ酸ナトリウムおよびギ酸ナトリウムからなる群から選択される金属塩を含む。アルミナ成分および炭酸塩成分の好ましい平均粒径D50は5～12μmであるが、特に炭酸塩成分に対しては、これより大きな粒子を使用し得る。アルミナおよびセスキ炭酸塩は、アルミナ/セスキ炭酸塩の重量比が0.8～5の割合で存在する。好ましくは、アルミナおよびセスキ炭酸塩は、アルミナ/セスキ炭酸塩の重量比が2～4の割合で存在する。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

酢酸ナトリウム、シュウ酸ナトリウムおよびギ酸ナトリウムからなる群から選択される金属塩を含む水溶液と一緒に、少なくとも1種のアルミナ化合物と固体金属炭酸塩とを混合することによって、混合物を形成し、

次いで前記固体金属炭酸塩および前記アルミナが硬化するのに十分な時間、前記混合物を25～150の間の温度で加熱し、

その後250～500の間の温度で反応性硬化を行うことによって、反応種を形成すること、

を含む、少なくとも1種のハロゲン化水素をガス流または液流から除去するための吸着剤を作製する方法。

【請求項2】

前記固体金属炭酸塩がセスキ炭酸塩化合物である、請求項1に記載の方法。

【請求項 3】

前記金属が、ナトリウム、カリウム、リチウム、亜鉛、ニッケル、鉄およびマンガンからなる群から選択される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記アルミナおよび前記セスキ炭酸塩は、前記アルミナ / 前記セスキ炭酸塩の重量比が 0 . 8 ~ 5 の割合で存在する、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 5】

前記吸着剤が $50 \sim 200 \text{ m}^2 / \text{g}$ の BET 表面積を有し、10 ~ 25 質量 % の Na_2O を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記吸着剤を使用して少なくとも 1 種のハロゲン化水素をガス流または液流から除去し、前記吸着剤を $70 \sim 400$ の間の温度で前記ガス流または液流に接触させる、請求項 1 から 5 のいずれかに記載の方法。

【請求項 7】

前記ガス流または液流が炭化水素を含む、請求項 6 に記載の方法。